

「緑の思想」 ～現代社会の病理の源とその処方箋～

足立力也（緑の党グリーンズジャパン運営委員）

1. ヒトの活動の目的 ～なぜ私たちは「思想」を考えなければならないか

- ・「ホモ・サピエンス」の目的＝自己保存と子孫継承→「よりよい」生存と子孫継承
- ①【BHN】（【Basic Human Needs】＝「人間の基本的諸要件」）の充足
- ②【QOL】（【Quality Of Life】＝生活の質）の上昇
- ↑「量的到達点」を示してこなかった＝既存思想の限界→QOL概念の変革→少欲知足
- 「SQOL」（Sufficient<十分な／充足した>クオリティ・オブ・ライフ）へ

2. 資本主義と共産主義／自由主義と社会主義の相違点と共通点

- ・経済思想の命題＝「経済をうまく回すためにはどうすればよいか？」
- 資本主義…「資本」（経済思想の基幹をなすもの）＝おカネ／共産主義…資本＝労働
- しかし「経済全体のパイ(人間の生産活動)を持続的に大きくする」という前提は共通
- ・社会思想の命題＝「社会をうまく回すためにはどうすればよいか？」
- 自由主義…個人が出発点／社会主義…社会全体が出発点
- しかし「人間社会の内部のみでしか通用しないルール」という前提は共通
- ⇒環境の制約はこれらの土台の「上モノ」としてしか考えられない

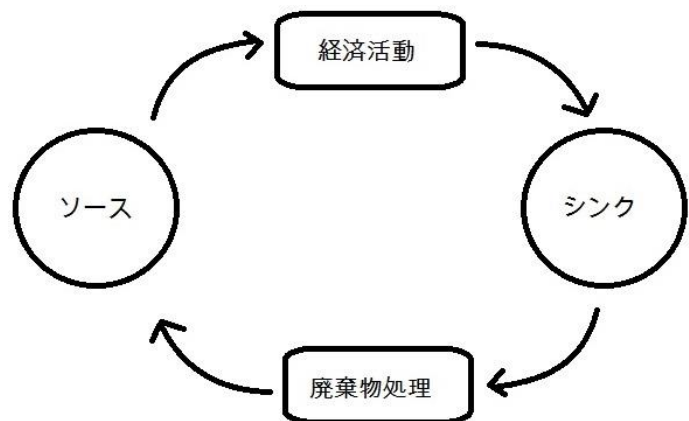
3. 「緑の思想」と資本主義／共産主義、自由主義／社会主義の違い

- ・資本（経済を回す基礎単位、基準、交換価値）＝環境
- ・環境を出発点とし、帰結点とする考え方
- 環境の制約とルールがすべての土台にあり、人間社会をその「上モノ」として考える

4. 「緑」的視点から見た現代世界の成り立ちと現状認識～環境の制約とルール

- ・「ソース」と「シンク」の制約
- 「ソース」＝天然資源、「シンク」
- ＝汚染吸収源

- ソースを使って私たち人間は経済活動を行う
- 廃棄物をシンクに捨てる
- たまった廃棄物は自然の作用によってソースに生まれ変わる
- またそれが人間の経済活動に使われる



…といった循環のもとに、私たちの経済活動は成り立っている。私たちはその循環のスピードを超過しないという「ルール」の下においてのみ、経済・社会活動を成り立たせることができる。

- ・私たちの限界は3つの局面から成り立っている（直面している）
- 「ソース」の限界＝天然資源の過度な収奪
- 「シンク」の限界＝廃棄物の大量廃棄（有害物質がたまっていく）
- 「ルール」の逸脱＝私たちの経済活動が自然の循環スピードを超えていること

5. 現代における「経済成長」の本質

■ 「経済成長」 = 【幾何級数的成長】とは？

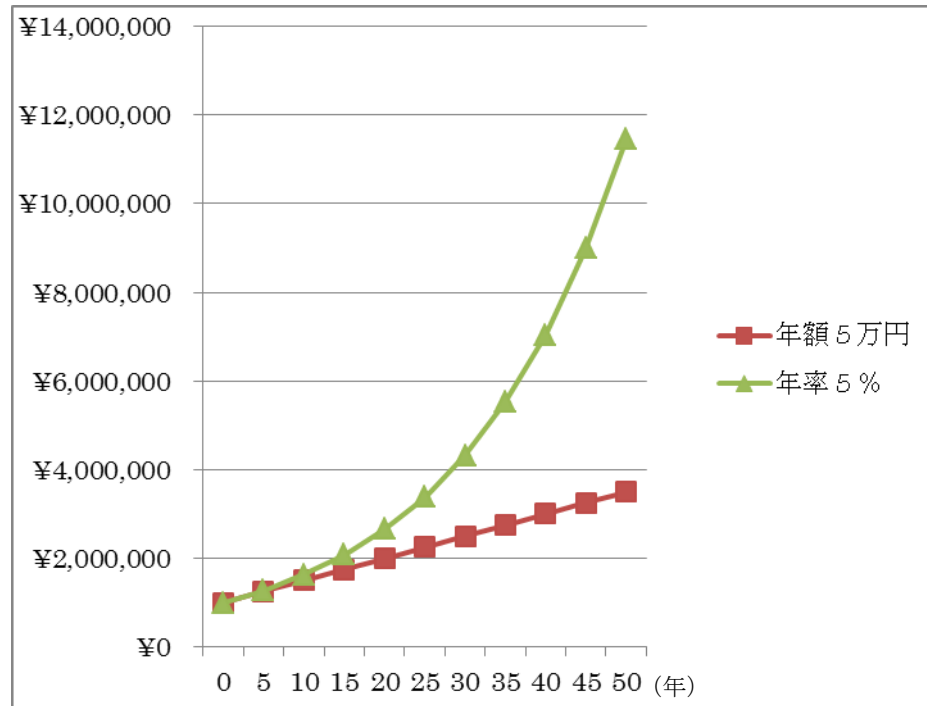


表1：100万円から年額5万円ずつ増額した場合と、年率5%ずつ増額した場合

・「幾何級数的成長」 = 「倍々ゲームの成長」「チキンレース的成長」を無限に追求

→ 「ソース」と「シンク」の制約により、いつかは破綻！

※自然の循環スピードには限界があるが、幾何級数的成長の加速度には限度がない

→ 科学技術や市場原理などは、限界を突破する時期をいくらか遅らせることはできても、破滅そのものを回避するための根本的な解決策とはならない

→ このパラダイムから抜け出すためには、「幾何級数的成長」をやめるしかない！

→ 「経済成長至上主義」からの脱却と、「定常型（循環型）社会」へのパラダイムシフトが必然的に求められる

これが緑の思想の根幹であり、他の経済・社会思想と決定的に違う点である

6. これから必要とされる思想

・「脱・経済成長至上主義」

GDPから「ものさし」を変える動き…【HDI】（【Human Development Index】「人間開発指数」 = 社会発展の充実度）→【GNH】（【Gross National Happiness】「国民総幸福量」 = 個人的幸福度の追求）→【HPI】（【Happy Planet Index】 = 「【地球幸福度指数】」環境負荷の指数化）などの新しい指標で比較

・「持続可能な地球」

このままでは人類や各種生物は歴史上類を見ないような危機に見舞われるだろう

→ 1. 環境的に持続可能な経済

2. 社会的に持続可能な公正性（社会は公正でないと持続できない。自然のバランスに社会のバランスを近づける）

→ 【グローバル・グリーンズ】の6つの原則 = エコロジカルな知恵、社会的公正、参画型民主主義、非暴力、持続可能性、多様性の尊重を統合的に捉えたひとかたまりの思想（図1を立方体として考える）

⇒ これらを「制度（ルール）化」することが必要 → 緑の思想を体現する「政党」の必要性

1. エコロジカルな知恵

「先住民族の知恵」「アニミズム」←日本古来の思想＝「自然から学ぶ」→「自然の権利」「生物民主主義」

2. 社会的公正

基本的人権の保障、平和的生存権←貧困、差別、抑圧などからの解放、BHNの充足、必要最低限のQOL

3. 参画型民主主義

表現の自由、計画・調査・立案・討議・決定・実行・検証の

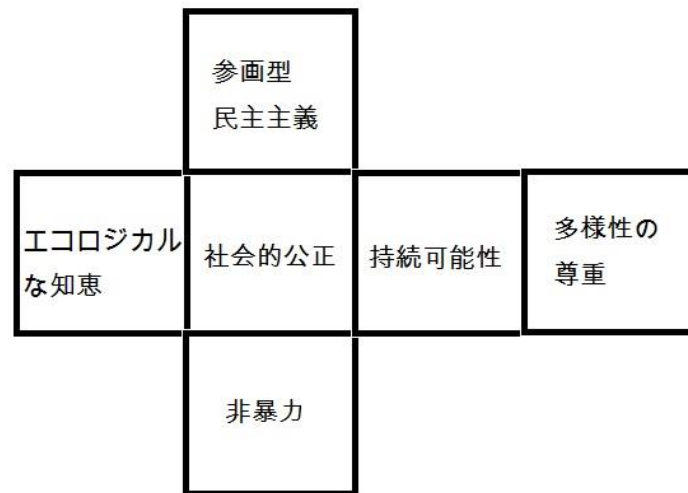


図1：グローバル・グリーンズの6原則

各プロセスへの全アクターの参画保障→個人の自己実現とコンセンサスの同時達成／価値観としての民主主義（社会の仕組みではなく方向性）

4. 非暴力

直接的暴力からの解放、構造的暴力からの解放、方法論としての暴力の放棄、協同作業を通じた積極的平和構築→「点の平和」から「線の平和」へ

5. 持続可能性

現世代と将来世代が等しい果実を得られるための持続型プランニング→「少欲知足」

6. 多様性の尊重

人間社会内の多様性（社会的公正）、自然界内の多様性（循環型物質／熱システム）を基礎にした経済・社会構築

⇒ローカルとグローバル、双方からのアプローチが必要

● **「緑の党」が各地域と世界において果たす役割はますます重要性を増す！**

7. 「思想力」をつけよう

・「問題対処（リアクション）型社会／市民運動」から「社会ヴィジョン提示（アクション）型社会／政治運動」への転換

何らかの社会問題が起こってからそれに対処する「フォアキャスト型」タイプの運動から、オルタナティブな社会像をあらかじめ提示する「バックキャスト型」タイプの運動への転換→何かを「止める」運動から、何かを「つくる」創造的運動へ

・「市民運動」には色はついていない。そこから「政治運動」へ転換するには、イシュー別の市民運動から派生した、社会全体のヴィジョンを構築する思想的模索を必要とする

8. これから必要とされる行動

→そのために必要な行動に、上記6原則を当てはめる

・既存の社会的・環境的問題に対して、上記6原則を当てはめて回答を示す

・6原則に従った社会像を提示する

＝3つの運動→市民運動、思想運動、政治運動を連動して展開！

・まずは【】内の単語をインターネットで検索してみよう！

→「どういう社会がよいと思うか？」を自分なりにまとめ、文章化してみる

→インターネットなどで発信→既存の社会問題に適用してみる→ブラッシュアップ

■参考文献

◎『成長の限界』デニス・L・メドウズ他、ダイヤモンド社、1972年

×『スモール・イズ・ビューティフル』E・F・シューマッハー；小島慶三、酒井懋訳、講談社学術文庫、1986年

△『限界を超えて 生きるための選択』ドネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、ヨルゲン・ランダース；茅陽一監訳、1992年、ダイヤモンド社

△『成長の限界 人類の選択』ドネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、ヨルゲン・ランダース；枝廣淳子訳、ダイヤモンド社、2005年

▲『地球のなおし方』ドネラ・H・メドウズ、デニス・L・メドウズ、枝廣淳子、ダイヤモンド社、2005年

×『経済成長なき社会発展は可能か？ <脱成長（デクロワサンス）>と<ポスト開発>の経済学』セルジュ・ラトゥーシュ；中野佳裕訳、作品社、2010年

○『緑の思想 経済成長なしで豊かに生きる方法』足立力也幻冬舎ルネッサンス、2013年

※各印は重要度を指す。◎→○→▲→△→×の順で必読性を示す